

5 ブロッコリーの移植同時植穴粒剤施薬機を用いた省力化

～主要野菜の生産安定と品質向上対策～

情報提供：中部農業事務所普及指導課

活動の背景

ブロッコリーは地域の主要野菜の一つで、平成20年の作付け面積は66.2ha、326戸の栽培農家戸数がある。普及指導課として、野菜苗育苗センターを核としたセル苗の活用促進による生産振興を推進している。

近年、農業技術センターと農機メーカーの共同により、野菜の半自動移植機に装着できる植穴粒剤施薬機が開発された。そこで、本機を用いたブロッコリーセル苗定植の実演会を開催するとともに、実証ほを設置して省力で効果的な農薬散布の普及に向けた取り組みを行った。

普及活動の経過

栽培経験が豊富な富士見村（支所）の生産農家65戸は、ほとんどが半自動移植機を利用している。キャベツ半自動移植機に取り付け可能な移植同時植穴粒剤施薬機が開発され、普及に移されたので、平成20年9月5日に実演会を開催し、ブロッコリーへの応用に道を開くべく、実証ほを設置した。

普及活動の成果

実演会には33名の農家の参加があった。植穴粒剤施薬機の効果（メリット）は、農薬散布時のドリフトによる危険性の回避と植付け時の同時施薬を一行程で作業できる点である。農家は「植え付け直下に施薬できて素晴らしい」、「既存機にも付けられるのか」などと感嘆する一方で、施薬動力のバッテリーについて「充電器の価格はどの程度か」、「移植機稼働動力から電気を取れないか」などの質問も相次いだ。また、ブロッコリーは相場が不安定であることから、「儲からないので投資に向けられる予算がない」との声も聞かれたが、「移植機は20年以上使っているので、更新するときには考えたい」という農家も見られた。



説明を受ける農家



当該機の実演

技術のポイント

- ・植穴粒剤施薬機は、現行のブロッコリー・キャベツの半自動移植機に装着可能である。
- ・本機により移植時に殺虫粒剤を同時施用することで、約4週間のコナガやアブラムシ類の防除効果が期待でき、1～2回程度の殺虫剤散布回数の削減ができる。
- ・病害防除に関しては、通常通り実施する必要がある。
- ・本機は平成21年度以降、16～17万円の価格で販売される予定である。